

# 擬人化と無生物主語

伊藤 三郎

## A Study on Personification and Inanimate Subject

Saburo ITOH

### はじめに

比喩には、直喩 (Simile) と隠喩 (Metaphor) があることは既に述べたところであるが、Metaphor をさらに広義に用いると、次の3つの表現形式もその中に含まれてくるとされる。

(1) 擬人法 (Personification)

Necessity knows no law. (必要は法律を知らない→脊に腹はかえられない。)

(2) 提喩 (Synecdoche)

Give us our daily bread. (我等に毎日のかてを与えよ。)

(3) 換喩 (Metonymy)

All of Russia is talking about a family of hermits. (世捨人の一家のことをロシアで話題になっている。)

今回は、擬人法を取り上げて見よう。未開人は超自然的存在や現象は、人格的生物即ち人またはその行為と同一視された。これを文明化するにつれて人間は芸術的創作にあたって意識的利用するようになった。自然現象をも含めて、人間以下の生物や無生物、さらに進んでは抽象的概念などを人、または人の為として示すのである。

造形美術においても、抽象的概念「聖愛と俗愛」をそれぞれ美装した婦人と裸体の婦人とに具体化されたり、イソップの寓話に登場する動物は擬人化されている。言語上では、「花笑い鳥歌う」の表現は修辞学上擬人法とされている。「沿線の小駅は石のように黙殺された」(横光利一)のような高度な表現になると文学的意義は大きい。

河は濁って太っていた。(「言語」四月号、1988)

無生物であり、自然現象である「河」を人間の行動とかかわって濁っていたり太っていたりするように生物として記述されている。こうした自然現象を、人間や動物の形や動作を示す言葉を用いて表わすことは「擬人法」と呼ばれてきた。こうしたことは原始から自然発生的に使われてきたと思われる。幼い時から深くつき合ってきた肉親や仲間や動物たちの状態・行動に喩えて表現するのは自然の理であろう。

こうした親近性にもとづく類推として幼児が随所随時に擬人的表現を示し、また幼児用の絵本等はすべて擬人化されて登場する。言葉の少ない幼児が「さらさら小川が流れる」の「さらさら」が言えなく「おじいさんのおでこのしわのように流れている」と表現するのを聞くが、この方がよほど真実味があり、「さらさら」より数段面白くすばらしい。

Q: “もしTちゃんのお母さんが死んじゃったらTちゃんはどうするかしら?”

A: “泣いちゃう”

Q: “どうして”

A: “お母ちゃんが死んじゃうと淋しい”

Q: “もしカメのお母さんが死んじゃったら、カメはどうするかしら?”

A: “泣いちゃう”

Q: “どうして?”

A: “お母さんが死んじゃうと淋しい”

この問答は、いわゆる animism で擬人化と考えてよからう。

#### 擬人法→無生物主語

さて本論にもどって修辞法の中の「擬人化・擬人法」を考察しよう。抑々は隠喩 (Metaphor) の一種であり Leech (1965) は ‘an angry sky’ や ‘graves yawned’ のように無生物に生物の属性を付与するのを ‘animistic metaphor’ といい ‘this friendly river’ や ‘laughing valley’ のように人間以外のものに、人間特有の性質を付与するのを humanizing metaphor と名付けている。I. A. Richard (1929) が言っているように、人間以外の生物や無生物に対して抱く感情や思考は、人間相互の感情や思考と共通するもので、日常の言語で専ら人間について用いる形容詞・動詞・代名詞を人間以外のものに適用するのはきわめて自然であらう。

Death's enormous sickle had swept those hills. (死神の大鎌がこれらの丘をなでた。)

Time himself hath hallow'd it.—— Byron (時間自身がそれをきよめたのであった。)

この中で特に無生物を主語にして人間について使われる動詞を用いる、いわゆる「無生物主語」の中でその頻度の高いものを掲げて見ることにする。

日本語では副詞語句になるものが英語では無生物主語として表わされ、無生物主語の構文においては、日本語の主語は英語では目的語になり、述語動詞は補語または副詞語句になる。

「どうして彼らは、自分たちの決定を変えたのか。」

*What caused them to revise their decision?*

「そのことを考えただけで、私は身ぶるいがする。」

*The mere thought of it makes me shudder.*

無生物主語の構文においては次のような動詞がよく用いられる。意味の上から分類しよう。

##### (1) 「させる」の意味の動詞

cause; The traffic jam *caused* him to be late. (交通渋滞のために彼は遅れた。)

These minor difficulties have *caused* us a great deal of delay and a vast amount of expense. —— Hooper, *Inventions* (これらの取るに足らない障害のために私たちは、かなり遅れることになったし、また多大の出費を必要とした。)

compel; The rain *compelled* us to cancel our picnic.

(雨のためピクニックは中止せざるを得なかった。)

force; Hunger *forced* him to steal —— N. E. D.

(空腹のために盗みをするようになった。)

A student demonstration *forced* new factors into an existing situation. ——

*Reich, Greeting*

(学生デモが現状に新しい要因を生ぜしめることになった。)

make; What *made* this sudden change? (どういうわけでこんなに急に変わったか。)

The beard *makes* him quite distinguished. (ひげで彼は立派に見える。)

The sweat on his forehead caught the light and *made* his black skin shine.

—— *Benchey* (額の汗が光を受けて黒い膚が光った。)

oblige: Necessity *obliged* him to commit this crime.

(貧困のために、彼はこの罪を犯さねばならなかった。)

The health *obliged* him to retire at the early age of fifty-eight.

(健康を害したので、彼は58歳の若さで引退しなければならなかった。)

(2) 「～するのを妨げる」の意の動詞

keep; Extra work *kept* me at the office.

(残業があってすぐに会社を出るわけにはいかなかった。)

Cold weather may *keep* the plants from budding.

(寒い気候のために植物は芽を出せなかった。)

Masking may *keep* him from being hurt even though it also *keeps* him from experiencing direct emotion. —— *Fast, Body language* (仮面をかぶっていれば他人に傷つけられないですむか、もっともそうしておれば喜怒哀楽の感情を直接経験出来なくなる。)

prevent; My pride *prevented* me from borrowing money from him.

(プライドが邪魔して、私は彼から金を借りることはしなかった。)

Old age *prevents* him from getting a job. (高齢のため彼は就職できない。)

stop; Rain *stopped* the game. (雨のため試合が中止になった。)

What *stopped* him (from) coming? (どうして彼は来られなかったのか。)

(3) 「連れて行く」の意の動詞

carry; Business *carried* him to New York. (彼は仕事でニューヨークへ行った)

Today's paper *carries* the story of a murder on the front page.

(今日の新聞の一面に殺人事件の記事がのっている。)

Often the furious beating of the pillow (if it does not come apart and fill the air with feathers) will *carry* the beater into an emotional state where his hostility to his father can empty out of him —— *Fast, Body language*

(腹立ちまぎれた枕でもたたいてみると(もっとも枕が破れて一面羽根だらけになったら話ですが)それまで父親に感じていた憎しみがいつの間にか身の内からぬけてゆくようなそんな気持ちになるってことがよくあるものです。)

take; The road *took* them over the hill. (その道を行くと彼らは丘の向うに出た。)

His ambition and perseverance *took* him quickly to the top of his field.

(彼には心と忍耐力があったのでたちまち専門の分野でトップに立つことができた。)

(4) 「～を持ってくる」の意の動詞

bring; A few minutes' walk *brought* me to the lake. (2, 3分歩くと私は湖へ出た。)

The sudden death *brought* great grief to the community.

(突然の死はその地域に大きな悲しみをもたらした。)

What has *brought* about this misunderstanding?

(どうしてこんな誤解が生じたか。)

- (5) 「～にしておく」の意の動詞

keep; The noise in the street *kept* me awake all night.

(通りが騒がしくて、一晩中私は目をさましていた。)

Today, barbed-wire fences guard the frontiers of some countries, or *keep* citizens out of areas governments to keep secret. (今日、有刺鉄線の柵は国境を守るのに用いられているが、あるいは政府が秘密にしておきたい地域から市民をしめだすのに用いられている。)

leave; The news *left* me uneasy. (その知らせを聞いて私はおちつかなかった。)

The story *left* him unmoved. (その話をよんでも彼は感動しなかった。)

- (6) 「～に駆り立てる」の意の動詞

drive; Failure *drove* me to despair. (失敗のために私は絶望に駆られた。)

The desire for a new challenge *drives* him some people to climb new peaks.

(人はチャレンジしてみようと思い立って新しい未踏の峰へと登る。)

- (7) 「～を示す」意の動詞

prove; Subsequent events *proved* his story to be true.

(続いて起った出来事で話が本当であることがわかった。)

Though the crew were at first under the impression that the lost ship had been found, the contents of the sea-chest *proved* them wrong. (乗組員たちは最初これが捜していた行方不明の船だという印象をもったが、船乗りの所持品を入れた箱の中味から自分たちが間違っていたことを知った。)

show; His eyes *showed* curiosity. (彼の目には好奇の色が浮んだ。)

The experiment *shows* the relation between work and heat.

(その実験から仕事と熱の関係が明らかである。)

teach; Time has *taught* me that a fool will not become wise when he grows old.

(馬鹿は年をとっても賢くならないことが、時がたつにつれて私にわかってきた。)

History *teaches* that poverty favors the rise of communism. — Web.

(貧困が共産主義の台頭を促すことは歴史の教えるところだ。)

tell; Her look *tells* that she loves you.

(彼女の様子を見れば、彼が君を愛していることがわかる。)

George was about to fire when the loud buzzing of flies *told* him that the animal was dead. (まさに引金を引こうとした時ハエのとぶ音でジョージは狙った動物が死んでいることがわかった。)

- (8) 「ぎせいを拂わせる」意の動詞

cost; Carelessness *cost* me my job. (不注意で私は仕事を失った。)

Certain typhoons *cost* the region a great deal in money and lives.

(台風によっては、地域に金や人命の犠牲をもたらす。)

The boy's bad behaviour *cost* his mother many sleepless nights.

(子供の非行のせいで母親は幾晩も眠れなかった。)

- (9) 「手間を省かせる」意の動詞

save ; That ticket *saves* you sixpence. (その切符で 6 ペンス節約できる。)

The beautiful lady's affections had not *saved* them from death.

(美しい婦人の愛情でも彼らを死から救うことができなかった。)

The warning voice of my frail heart *saved* me from these fleeting passions.

(ひ弱な心臓の警告の声のおかげで、私はこういう一時的な情熱に駆られないですんだ。)

spare ; His visit *spared* me the trouble of writing to him.

(彼が訪ねてきてくれたので手紙を書く手間が省けた。)

A glance over this morning's paper would have *spared* you a loss due to a sharp fall in the stock market. (ちょっと今朝の新聞を見ていれば、あなたは株の暴落で損をしないですんだのに。)

(10) 「思い出させる」意の動詞

remind ; This picture always *reminds* me of my happy school days.

(この写真を見ると私はいつも楽しかった学校時代を思い出す。)

Your story *reminds* me of something similar which happened to me a few years ago.

(あなたの話を聞いて、数年前に私にも似たようなことがあったことを思い出した。)

The sight of the clock *reminds* me that I was late.

(時計を見て遅れていることを思い出した。)

(11) 感情を表わす動詞

discourage ; The second failure *discouraged* him utterly.

(二度目の失敗ですっかりやる気を失った。)

Lack of recognition *discouraged* him from writing other novels. (世間から認められなかったので、彼はそれ以上小説を書くことをやめてしまった。)

Low hedges around lawns *discourage* people from walking on the grass.

(芝生のまわりにめぐらした低い垣で人々は草の上を歩くのを思いとどまる。)

encourage ; Your letter *encourages* me greatly.

(あなたの手紙によって私は大いに力づけられた。)

In half a century the automobile industry has *encouraged* the development of millions miles of highways. (自動車工業のおかげで半世紀の間に数百万マイルものハイウェイの開発が促進された。)

enable ; Rockets *enable* travel in other space.

(ロケットのおかげで宇宙旅行ができる。)

The new machinery *enabled* us to improve productivity.

(新しい機械によってわが社の生産が向上した。)

The collapse of the strike *enabled* the company to resume normal bus service.

(ストが腰くだけになって、会社は正常にバスの運行を再開できた。)

frighten ; The sight *frightened* the boys out of playing there.

(それを見ると少年たちはこわくなって、そこで遊ぶのをやめた。)

The gathering darkness *frightened* them in.

(夕やみが濃くなり彼らはこわくて家の中に入った。)

The presence of the police *frightened* many criminals out of attempting further crimes.

(警察の存在が犯罪者たちは恐ろしくこれ以上罪を重ねようとしなかった。)

puzzle; The assignment *puzzled* us. (その問題に私たちは困惑した。)

Her long silence *puzzled* me. (彼女の長い沈黙が腑におちなかった。)

The persistence of a high temperature in the patient *puzzled* the doctor.

(患者の高熱がいつまでも続くので、医師は頭を悩ませた。)

surprise; The mild old man's sudden fury *surprised* us.

(温和な老人が激怒したので私たちはびっくりした。)

The abrupt questions *surprised* him into admitting the truth.

(急に質問されて彼は真実を認めてしまった。)

(12) 「～を与える」意の動詞

give; Eating liver *gives* lots of iron to you. (レバーを食べると身体に鉄分がたまる。)

The long walk *gave* me a good appetite. (長く歩いたので私は食が進んだ。)

Petra's death *gave* us a numbing shock.

(ペトラの死は口もきけないほどのショックを与えた。)

obtain; The play *obtained* him great fame. (その戯曲で彼は大きな名声を得た。)

Great efforts *obtained* him his present position.

(彼は非常な努力をして今日の地位を得たのだった。)

There are the novels *obtained* him such a reputation.

(これらの小説で一躍有名になった。)

序ながら、20世紀の英米の作家の作品の中から比較的知られている例をあげてみよう。

1. Owing to the large part which books play in education, people have come to hold strange views concerning language, and some actually think that the letters, which make up the written word on paper, are the real language, and that the sounds, which we can hear, are only of minor importance. It is probable that we should find it easier to grasp the real external facts of language, which are its sounds, if we knew nothing about writing and spelling at all, and could only think of language as being uttered sounds. *A little consideration of the question shows us that the letters are very unimportant compared with sounds and, that when we study a language, it is the sounds and their meanings which must mainly concern us.* (H. C. Wyld)

書籍が教育に果たす大きな役割のために、人々は言語に関して妙な考えを抱くようになった、そして文字—紙上に書き言葉を構成しているものではあるが—こそ本当の言語であり、音声—我々が耳に聞くことのできるものだが—は重用性では文字に比べて小さいものにすぎないと考えている人も実際にいる。もしも書き方や綴り方について何一つ知らず、言語を口から発せられた音声を考えることしかできなければ、真の言葉の外面的事実—それは音声であるが—を把握することは恐らくたやすいと思うだろう。その問題を少し考えてみれば、音声に比べれば、文字は重要性が全くなく、したがって言語を研究するに際して、我々に関係があるべきは何よ

り音声とその意味であることが明らかになろう。

2. Hunger is a desire which is on the boundary line between pain and pleasure. *It shows better than any other state that pain and pleasure arise from the degree of desire.* When hunger is moderate the sensation is agreeable, and *the idea of food gives pleasure*; but when it is excessive there is only pain, and then one's thoughts are engaged not with the satisfactoriness of eating a good dinner, but merely with the getting rid of an unpleasant feeling. (W. S. Maugham)

空腹は苦痛と快楽の境界線に位置する欲望である。それは、苦痛と快楽が欲望の段階いかんによって生ずることを、他のいかなる状態よりもよく示している。空腹が適度である時はその知覚は快適であり、食物のことを考えると楽しくなる。けれども、それが適度の時は、あるのは苦痛だけで、その時の人の考えは、うまい正餐を食べて満足しようという気持で一杯でなくて、不愉快な感情を除去したいということ丈で一杯である。

3. I took a bundle of old letters out of a jacket this morning to look for a document which I wanted, and which I thought might be there. It was not there. I was not in the least surprised. I am never surprised when I do not find things in my pockets. *Long experience has taught me not to expect to find what I want in my pockets and what ought to be there.* But, on the other hand, I rarely fail to find things I do not want, things that simply refuse to be lost, negligible things, tiresome things, old bills, old envelopes of vanished letters, notes I have made about matters long since dead, sometimes startling things that make me leap up with ejaculations only wrung from me in moments of sudden dismay. (A. G. Gardiner)

今朝私は必要の生じた、そしてそこにあるだろうと思った書類を探そうと上衣のポケットから一束の古手紙を取り出した。そこにはなかった。でも私は少しも驚かなかった。ポケットの中に物が見つからなくても少しも驚かない。長い経験から、いるものでそこにあるべきはずのものがみつかるとは思っていないと教えられている。ところが一方では、次のようなものは間違いなく見つかる—いらないもの、なくそうとしてもどうしてもなくなるもの、とるに足らないもの、厄介なもの、昔の勘定書、中味の手紙がなくなった古い封筒、もう用がなくなって久しいことについてしたためたメモ、時にはハッと驚いた際にしか身体から絞り出すことのない叫び声をあげて飛び上らせるようなびっくりするものなど。

4. Mine has been the limited experience of one who lives in a world without color and without sound. But ever since my student days I have had a joyous certainty that my physical handicaps were not an essential part of my being, since they were not in any way a part of my mind. This faith was confirmed when I came to Descartes' maxim, "I think, therefore I am." *Those five emphatic words waked something in me that has never slept since.* I knew then that my mind could be a positive instrument of happiness, bridging over the dark, silent void with concepts of a vibrant, light-flooded happiness. I learned that it

is possible for us to create light and sound and order within us, no matter what calamity may befall us in the outer world. (H. Keller)

私の経験は色と音を欠いた世界に住む人間の限られた経験であった。しかし私は勉学時代からずっと次のような喜ばしい確信を持ち続けて来た、即ち、私の身体上のハンディキャップは、どう考えても私の精神の一部を構成するものではないが故に、私の存在の重要な部分ではないということである。私はこの信念は、デカルトの金言「我思う故に我あり」というのにぶつかった時に確認された。この力強い五つの語は、私の心の中にそれ以来ずっと眠らない何物かを目ざめさせた。私は、私の精神が積極的に幸福を生み出す道具であり、暗い沈黙の空虚の世界を活気ある、光の満ちた幸福感で征服するものだと思った。私は、外界では我々にどんな災害がふりかかろうとも、我々が我々の中に光と音と秩序を創造することは可能であることを学んだ。

5. I have been catching trains all my life, and all my life I have been afraid I shouldn't catch them. *Familiarity with the habits of trains cannot get rid of a secret conviction that their aim is to give me the slip if it can be done. No faith in my own watch can affect my doubts as to the reliability of the watch of the guard or the station clock or whatever deceitful signal the engine-driver obeys.* Moreover, I am oppressed with the possibilities of the delay on the road to the station. There may be a block in the streets, the bus may break down, the taxi-driver may be drunk or not know the way, or think I don't know the way, and take me round and round the squares, or—in fact, anything may happen, and it is never until I am safely inside that I feel really happy. (A. G. Gardiner)

今日までいつも汽車に間に合ってきたが、同時に今日までいつも間に合わないのではないかと気をもんできた。汽車の習慣はよく知っていたものの、汽車はあわよくば私に肩すかしをくわそうというのがきつと狙いである、と内心信じている気持は捨てきれない。車掌の時計とか駅の時計とか機関手の従うどんな人だましの信号にせよ、そんなものに信頼がおけるであろうかという疑念は、自分の時計をいくら信用してもどうにもできない。その上ひよっとして駅へ行く途中で遅れるようなことがあるかも知れないと思うと気が重い。町通りには混雑して動きのとれない車の邪魔があるかもしれない、バスは故障するかもしれない、タクシーの運転手が酔っばらっているとか、道がわからなかったりするかもしれない、また私が道を知らないと思って広場をぐるぐる引っぱり回したりするかもしれない、あるいは実際何が起るかかわからない、だから無事に列車におさまってはじめてやっとなにやらやれよかったという気持ちになる。

6. It was a warm day, too warm for that time of year, and the lake in the park had a couple of dozen row-boats on it. The freshly painted benches were placed out on the grass between the boathouse and the water. The weather was of the sort that, had it come on a Sunday, *would have permitted the newspapers to report record-breaking crowds in the park.* But it was an ordinary Wednesday morning and there was just a handful of quiet people who spread about as though by arrangement, one to a bench, reading newspapers or turning their faces up to the sun, their eyes closed, trying to catch a bit of sunburn to carry home



proudly. (J. Weldman)

それは暖かい日で、その気候にしては暖かすぎるほどで、公園の湖には20隻あまりのボートが浮んでいた。新しくペンキを塗ったベンチがボート小屋と湖水の間の芝生の上に置かれていた。天気は、もしこれが日曜日にあたっていれば、新聞に公園は記録破りの人出であったと報じさせるような好天気であった。しかしその日は普通の水曜日で、まるで配置でもされたように、一握りほどの静かな人々が散在し、一つのベンチに一人ずつ、新聞を読んでいた、少しばかり日焼けして得意になって家へ帰ろうと、眼を閉じて顔を太陽の方に向けていた。

無生物主語を持つ諺

- |   |              |
|---|--------------|
| 1. Actions speak louder than words. (17c.)<br>(The effect speaks, the tongue need not.) | 不言実行         |
| 2. All roads lead to Rome. (17c.)   | 百川海に注ぐ       |
| 3. All work and no play makes Jack a dull boy. (17c.)                                   | よく学びよく遊べ     |
| 4. April showers bring forth May flowers. (15c.)  | 卯月の雨五月の花     |
| 5. Bad news travels quickly. (17c.)<br>(Ill news flies apace.)                          | 悪事千里を走る      |
| 6. Borrowing brings care. (16c.)  | 借金は苦の種       |
| 7. Care and diligence bring luck.   | 勤勉は成功の母      |
| 8. Custom makes all things easy.<br>(Practice makes perfect.)                           | 習うより馴れ       |
| 9. The devil takes the hindmost.  | 我れ勝ち         |
| 10. Dreams go by contraries. (16c.)   | 夢さかさま        |
| 11. Early to bed and early to rise makes a man healthy,<br>wealthy, and wise. (16c.)    | 朝起きは三文の徳     |
| 12. An empty purse frights away friends.  | 金が仇          |
| 13. The empty vessel makes the greatest sound. (16c.)                                   | 馬鹿の高笑い       |
| 14. The end justifies the means. (17c.)   | 嘘も方便         |
| 15. Experience makes even fools wise. (18c.)<br>(Experience teaches fools.)             | 経験は馬鹿をも賢くする  |
| 16. A fair face may hide a foul heart.  | 美人愚人多し       |
| 17. Faith can remove a mountain. (19c.)   | 鰯の頭も信心から     |
| 18. Familiarity breeds contempt. (B. C.)  | 心安だては侮りを招く   |
| 19. Fine feathers make fine birds. (Asop)   | 馬子にも衣裳       |
| 20. Four eyes see more than two. (16c.)   | 岡目八目         |
| 21. A full purse makes the mouth to speak.  | 金が言わせる旦那様    |
| 22. A good appetite does not want sauce.  | ひもじい時のまずい物なし |
| 23. Good beginnings make good endings.  | 始めが大切        |
| 24. Good words cost nought. (16c.)  | 親切な言葉は金がいらない |
| 25. Goslings lead the geese to water. (17c.)  | 負うた子に教えられる   |
| 26. A hedge between keeps friendship green. (18c.)                                      | 親しき仲にも礼儀あり   |

- |  |               |
|--|---------------|
| 27. Hunger makes hard bones sweet beans.             | 空腹にまずいものなし    |
| 28. Idleness leads to vice. (17c.)                   | 小人閑居して不善をなす   |
| 29. Little and often fills the purse. (18c.)         | 塵も積もれば山となる    |
| (Many a little makes a mickle.)                      |               |
| (Many drops make a shower.)                          |               |
| 30. Love laughs at a distance.                       | ほれて通えば千里も一里   |
| (Love laughs at locksmiths.)                         |               |
| 31. Lying and stealing live next door to each other. | 嘘は泥棒の始め       |
| 32. Many hands make light work. (15c.)               | 船頭多くして舟山に上る   |
| 33. Misery loves company. (16c.)                     | 同病相憐れむ        |
| 34. Money makes the mare to go.                      | 地獄の沙汰も金次第     |
| (Money talks.)                                       |               |
| 35. The mountains have brought forth a mouse.        | 大山鳴動してねずみ一匹   |
| 36. Necessity knows no law. (14~15c.)                | 出物腫物ところ嫌わず    |
| 37. Necessity teaches art. (16c.)                    | 必要は発明の母       |
| 38. Nothing succeeds like success. (19c.)            | 一事が成功すれば万事成る  |
| 39. One misfortune calls another (14c.)              | 泣き面に蜂         |
| 40. Patience opens all doors. (14c.)                 | 幸は物事成就の基      |
| 41. Quarrel makes agreement more precious.           | 争論は和合をより貴重にする |
| 42. Rest breeds rust.                                | 水淀めば芥たまる      |
| 43. Running water carries on poison.                 | 小人閑居して不善をなす   |
| 44. Shallow waters make din. (15c.)                  | 能ある鷹は爪をかくす    |
| 45. Silence gives consent.                           | 無言は承知         |
| 46. Straws show how blows the wind. (17c.)           | 一葉落ちて天下の秋を知る  |
| 47. Teaching others teaches yourself. (17c.)         | 教うるは学ぶの半ば     |
| 48. Time devours all things.                         | 人の噂も 75 日     |
| 49. Union makes power. (Æsop)                        | 団結は力          |
| 50. A willing wind makes a light foot.               | 心勇めは足も軽し      |
| 51. Wind in the face makes a man wise.               | 艱難汝を玉にす       |
| 52. The worst wheel of a cart makes most noise.      | 能弁無力          |
| 53. Years know more than books.                      | 亀の甲より年の功      |
| 54. Youth and age will never agree. (14c.)           | 若者と老人は意見が合わぬ  |
| 55. Youth lives on hope, old age remembrance.        | 青霊の志, 老人の昔自慢  |

以上比較的よく知られたものを列挙したが、擬人化表現は頗る多い。

#### おわりに

Jespersen (MEG, VII § 16, 5) によれば、英語に擬人法が多く見られる原因は Modern English に於ける文法的性 (Grammatical Gender) の喪失にあるという。しかし擬人法ひいては無生物主語は詩的表現に適したもので、J. Bunyan の *The Pilgrim's Progress* も擬人法で展開される物語であることは有名である。

Then he began to go forward; but Discretion, Piety, Charity, and Prudence would

accompany him down to the foot of the hill. (彼は歩きはじめたが、慎重と敬虔と愛と思索は丘のふもとまで彼とともに行くことを願った。)

また散文の中でも、非常に効果的に用いることのできる技巧である。殊に文章に生氣を与えるのである。そして現在日本語にも、いわばメタファーが日常語を支えているのである。そこでここに修辞学の上から擬人化を中心にして述べた次第である。

### 参 考 文 献

1. Jespersen, O. H. A Modern English Grammar on Historical Principles. London: Allen & Unwin, 1909.
2. 大塚高信、『新英文法辞典』三省堂, 1959.
3. 福原麟太郎、『英語教育辞典』研究社, 1961.
4. 長井民最, New Handbook of English 研究社, 1967.
5. 篠田武清、『英語の諺・古語の研究』篠崎書林, 1977.
6. Owen Thomas. METAPHOR Eichosha, 1977
7. Richard J.A. 『新修辞学原論』南雲堂, 1978
8. 佐々木健一・樋口恵子, 『一般修辞学』大修館書店, 1981
9. 波多野誼余夫, 『知力をさぐる』NHK出版協会, 1988
10. 利沢行夫, 『日常語を支えるメタファー』(言語四月号) 大修館書店, 1988